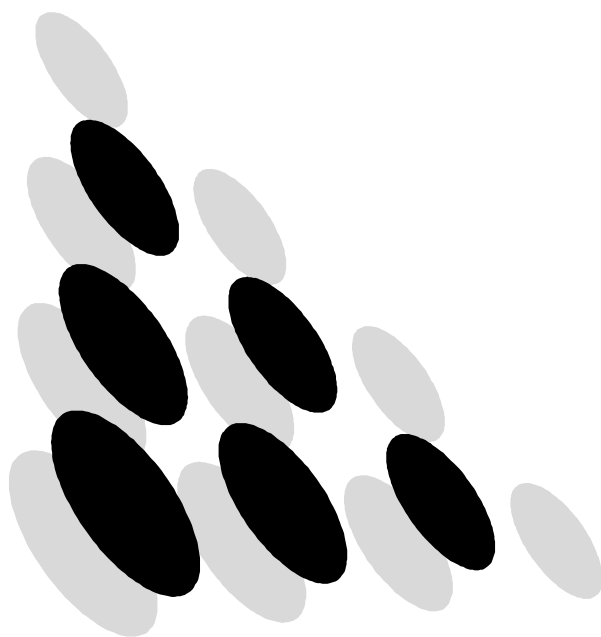


B1FY-1521-02

GRANPOWER5000 シリーズ
サーバモニタモジュール (GP5-SM101)

取扱説明書

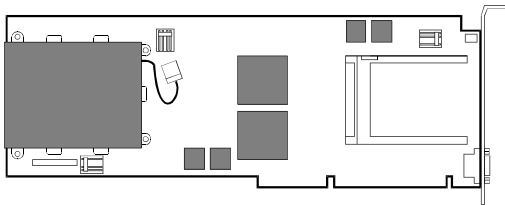


はじめに

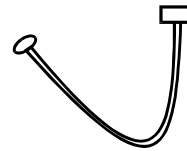
このたびは、弊社のサーバモニタモジュール(GP5-SM101)をお買い上げいただきまことにありがとうございます。

サーバモニタモジュール(以降、本製品)をお使いになる前に、この取扱説明書をよく読んで、効果的にご利用ください。お読みになったあとは、保証書とともに必ず保管してください。なお、販売店のサインのない保証書は無効ですのでご注意ください。

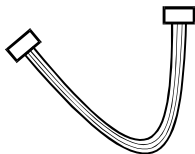
梱包物を確認してください



ISA カード(バッテリー付き)



第 2 温度センサケーブル



リセットケーブル



第 2 温度センサケーブル押さえ



拡張機能用ケーブル

シール

修理サービス網一覧表

保証書

取扱説明書(本書)

万一、不備な点がございましたら、おそれいりますが、お買い上げの販売店または最寄りの弊社 OA 保守サービスセンターまでお申し付けください。

1997 年 5 月

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

本装置は、第一種情報装置(商工業地域において使用されるべき情報装置)で商工業地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協会(VCCI)基準に適合しております。

したがって、住宅地域または隣接した地域で使用すると、ラジオ、テレビジョン受信機等に受信障害を与えることがあります。

取扱説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

安全にお使いいただくために

本製品をお使いになる際は次の点にご注意ください。

- 本書中の「注意」には、本製品を安全にお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品の取扱いおよび操作の際には、「注意」をよくお読みください。
- 本書は、本製品の使用中にいつでも参照できるように大切に保管してください。

本文中の表記について

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

 **注意** 正しく使用しない場合、次の危険性があることを示します。

- 傷害を負う危険性
- 本製品が破壊されたり、データなどのソフトウェア資産やその他財産を破壊されたりする危険性

LANDesk®は、米国Intel Corporationの登録商標です。

Novell, NetWare, BTRIEVEは、米国Novell, Inc.の登録商標です。

IBM, PC, PC XT, VGAは、International Business Machines Corporationの登録商標です。

Microsoftは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

MS-DOS, OLE, Windows, Windows NTおよびEXCELは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。

その他、このマニュアルに記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商号、商標、登録商標です。

サードパーティの商標は、* (アスタリスク) で表示しています。



Ni-Cd このマークは、ニッカド電池のリサイクルマークです。

目次

0.序 章	0-1
0.1 サーバモニタモジュールとは.....	0-1

1.サーバモニタモジュールの装着	1-1
1.1 概要.....	1-1
1.1.1 必要なツール.....	1-1
1.1.2 作業を開始する前に.....	1-2
1.2 モジュールの準備.....	1-3
1.2.1 PCMCIAモデムの装着.....	1-4
1.2.2 内部ケーブルの装着.....	1-4
1.3 サーバモニタモジュールの装着.....	1-5
1.3.1 モジュールの装着.....	1-5
1.3.2 外付けモデムの接続.....	1-7
1.3.3 装着の終了.....	1-8
1.4 コンフィグレーション.....	1-9
1.4.1 SCU添付サーバにおけるコンフィグレーション.....	1-9
1.4.2 ECU添付サーバにおけるコンフィグレーション.....	1-11
1.4.3 ICU添付サーバにおけるコンフィグレーション.....	1-14

2.モジュールの参考情報	2-1
2.1 バックアップ用バッテリーパック.....	2-1
2.1.1 バッテリーパックの取り換え方法.....	2-2
2.2 仕様.....	2-4
2.2.1 物理仕様.....	2-4
2.2.2 電気仕様.....	2-4
2.2.3 NiCdバッテリー仕様.....	2-4
2.2.4 環境.....	2-4
2.3 シリアルポートコネクタ.....	2-5
2.4 モデムについて.....	2-5

序 章

0

0.1サーバモニタモジュールとは

サーバモニタモジュールは、サーバの動作状態を監視し、サーバ上で発生する様々な問題点やサーバの動作情報を管理者に提供することを目的とした製品です。サーバモニタモジュールは、ISAカード、ケーブルなどのハードウェアから構成され、それらは関連ソフトウェア（LANDesk® Server Manager）により制御されます。本書では、サーバモニタモジュールのISAカード(以下モジュールと略します)並びにケーブル類の装着方法、コンフィグレーション方法、仕様について説明します。

尚、関連ソフトウェアに関する説明については、別マニュアル（紙またはオンラインマニュアル）を参照ください。

サーバモニタモジュールの関連ソフトウェアは、サーバ上で動作するサーバ監視ソフト、およびクライアント上で動作するコンソールソフトより構成されます。

一方、モジュールは、サーバのISAバスに装着する拡張カードです。

サーバモジュールの装着

1

1.1 概要

モジュールは次に示す構成要素から成り立っています。

- Vadem VG-230 (8086互換 CPU)
- 不揮発性メモリ
- モデム専用 PCMCIA (Personal Computer Memory Card International Association)
インタフェース
- シリアルポート
- モデム (本製品には含まれません)
- デュアルポートメモリ
- ISA バスマスタ回路
- POST コードキャプチャ回路
- 充電式バッテリー型バックアップ電源

1.1.1 必要なツール

モジュールをサーバに装着する前に、以下のものを準備してください。

- 本書
- サーバの取扱説明書 (マニュアル)
- プラスドライバ

1.1 概要

1.1.2 作業を開始する前に

モジュールをサーバに装着する前に下記の事項に注意してください。

注意（必ず読んでください）

サーバのカバーをはずす際は、最初にサーバの電源を切り、サーバの後部からAC電源コードを抜いてください。カバーを外す前に電源を切っておかないと、サーバが故障する恐れがあります。

静電気により、各種プリント板やファイル装置そのほかの構成要素が故障することがあります。プリント板上の素子やコネクタピン等にはなるべく触れないでください。

モジュール上のバッテリーのコネクタは、モジュールの装着作業が完了するまで絶対に接続しないでください。モジュールの故障や感電によるケガの原因になります。

モジュールのバッテリーを接続した後は、むやみにモジュールを拡張スロットから抜いたり、装着したPCMCIAモデムを外したりしないでください。

また、モジュールの交換、スロット位置の変更、PCMCIAモデムの交換、増設を実施する場合は、正常シーケンスにてサーバの電源を切った後、必ず最初にバッテリーケーブルを抜いてから作業を行ってください。

モジュールのバッテリーケーブルを接続したり外したりする際は、モジュール端に沿って搭載されている金属棒以外の部分には触れないでください。モジュールの故障や感電によるケガの原因になります。

カバーを外したままでサーバを動作させると、サーバが故障するおそれがあります。システムの電源を投入する前には必ずカバーを取り付けて、冷却のための空気循環が適切に行われるようにしてください。

本製品に添付されているリセットケーブル（ケーブルの両端にコネクタがある細いケーブル。“はじめに”の絵を参照してください）は、使用しません。（将来の拡張用）大切に保管して下さい。

1.2 モジュールの準備

サーバにモジュールを装着する前に、以下のことを実行してください。

- PCMCIAモデムを装着する。
(外付けモデムをご使用になる場合は、本章で後述する「外付けモデムの接続」を参照してください)
- 内部ケーブル(バッテリーケーブルを除く)を接続する。

⚠ 注意

PCMCIAモデムと外付けモデムを同時にモジュールに接続しないでください。(排他)
またモジュールに接続するモデムは、弊社のカatalogに掲載されている、サーバモニタモジュールに接続可能なモデムをご使用ください。

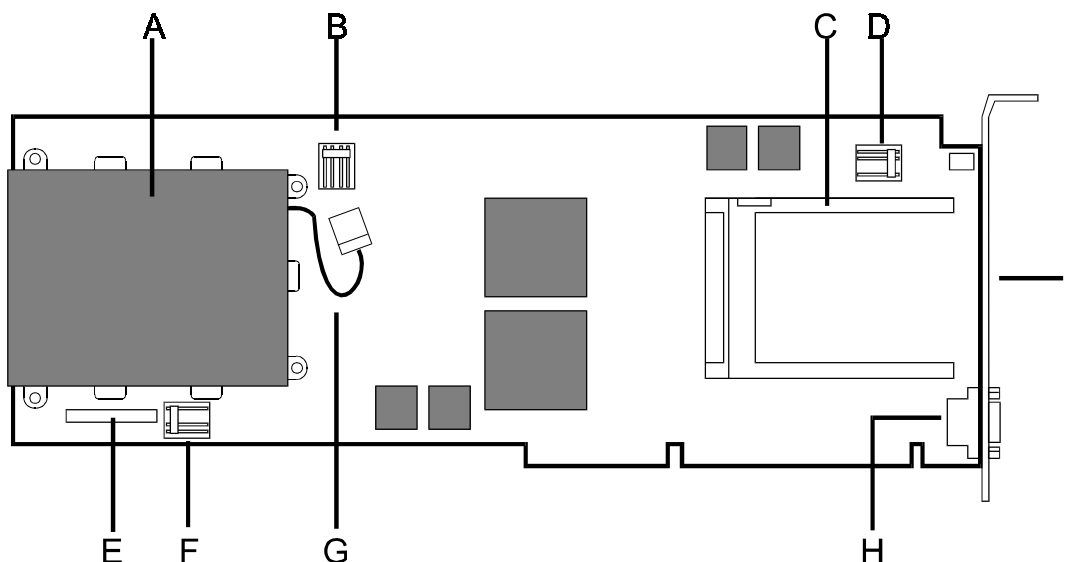


図 1-1. サーバモニタモジュールのレイアウト

- A—バッテリーパック
- B—バッテリーパック用電源コネクタ
- C—PCMCIAモデムスロット
- D—サーバリセットケーブル用コネクタ
- E—拡張機能ケーブル用コネクタ
- F—第2温度センサーケーブル用コネクタ
- G—バッテリーケーブル
- H—シリアルポート(外付けモデム接続用)
- I—ブラケット

1.2.1 PCMCIAモデムの装着

PCMCIAモデムをモジュールのPCMCIAモデムスロット（図 1-1, C）に装着します。

1. モジュールを保護梱包から取り出してください。取り出す際には、モジュールの端だけをつかんでください。モジュール上の部品や金色のエッジコネクタには触れないでください。
2. PCMCIAモデムをブラケットの開口部に奥までしっかりと挿入してください。

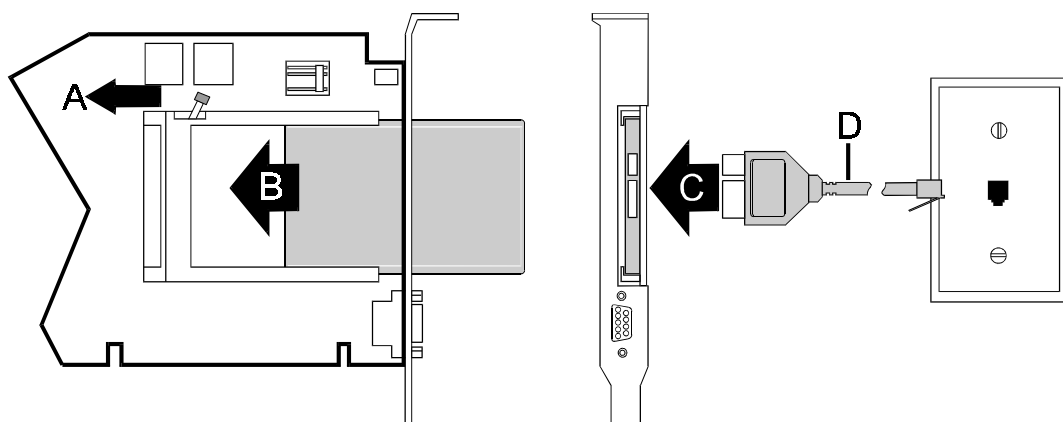


図 1-2. PCMCIAモデムの実装例

- A—イジェクトレバー（取り外すためには矢印の方へ押す）
- B—PCMCIAモデム
- C—モデムコネクタ
- D—電話ケーブル（モデム添付品）

1.2.2 内部ケーブルの装着

1. 第2温度センサケーブルを装着します。専用コネクタ（図 1-1, F）に接続してください。（ケーブルの片方の端だけにコネクタがあるケーブルが第2温度センサケーブルです）

⚠ 注意

図 1-1 D（サーバリセットケーブル用コネクタ）に誤って接続しないように注意してください。

2. 拡張機能用ケーブルを装着します。専用コネクタ（図 1-1, E）に接続してください。（ケーブルの両端にコネクタがある幅広のケーブルが拡張機能用ケーブルです）

⚠ 注意

一部のサーバには、そのサーバ専用の拡張機能用ケーブルが添付されています。その場合、本製品に添付されている拡張機能用ケーブルはご使用にならないでください。詳細は、サーバのマニュアルを参照してください。

1.3 サーバモニタモジュールの装着

1.3.1 モジュールの装着

モジュールは、サーバマザーボードの EISA / ISA 拡張スロットに装着できます。

モジュールを装着した後、バッテリーパックをサーバ内で充電してください。バックアップ電源としてバッテリーを使用するために、少なくとも 4 時間の充電が必要です。
(充電はサーバ本体の電源投入後、自動的に開始されます)

1. 「1.1.2 作業を開始する前に」をよく読んで注意事項に留意してください。
2. サーバの電源を切り、電源コードや外部接続ケーブルをすべて外してください。
3. サーバのマニュアルの記述に従って、システムカバーを取り外します。
4. モジュールを装着する EISA / ISA 拡張スロットを選択します。選択したスロット番号をメモしておいてください。モジュールのコンフィグレーションを実行する時に必要な場合があります。

注意

サーバ機によっては、装着できるスロットに制限がある場合があります。詳しくは、サーバのマニュアルを参照してください。

5. プラスドライバで、選択した拡張スロットのネジとカバーを取り外して保管してください (図 1-3)。

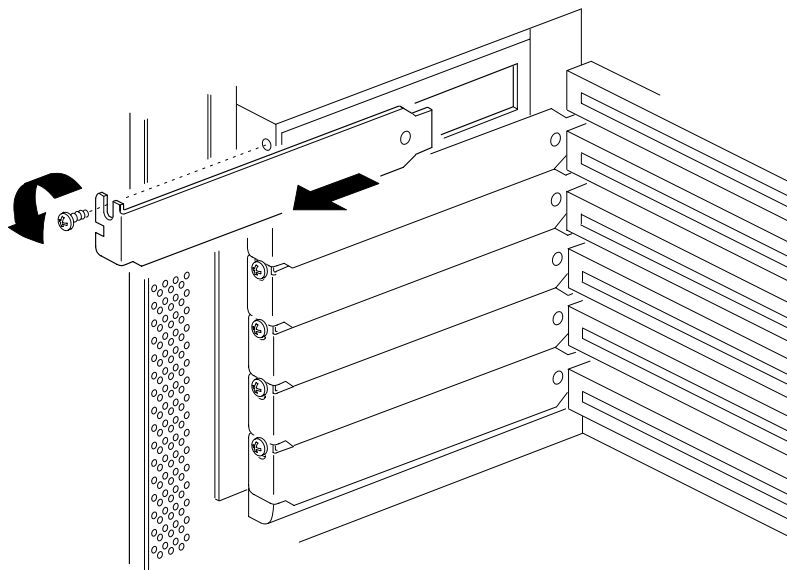


図 1-3. 拡張スロットのカバー

6. モジュールのコーナを持ち、マザーボードの拡張スロットにしっかり差し込んでください (図 1-4)。ブラケットの先細りになった脚の部分が、拡張スロット枠の対応スロットにぴったり合うようにしてください。

1.3 サーバモニタモジュールの装着

7. ブラケットの円い切りぬきの位置を、拡張スロット枠のネジ穴に合わせてください。拡張スロットカバーが入っていたスペースにブラケットがぴったりと納まります。
8. プラスドライバーで、ネジをネジ留めしてください。ブラケットが隣のブラケットとぶつからないようにしっかりと固定してください。

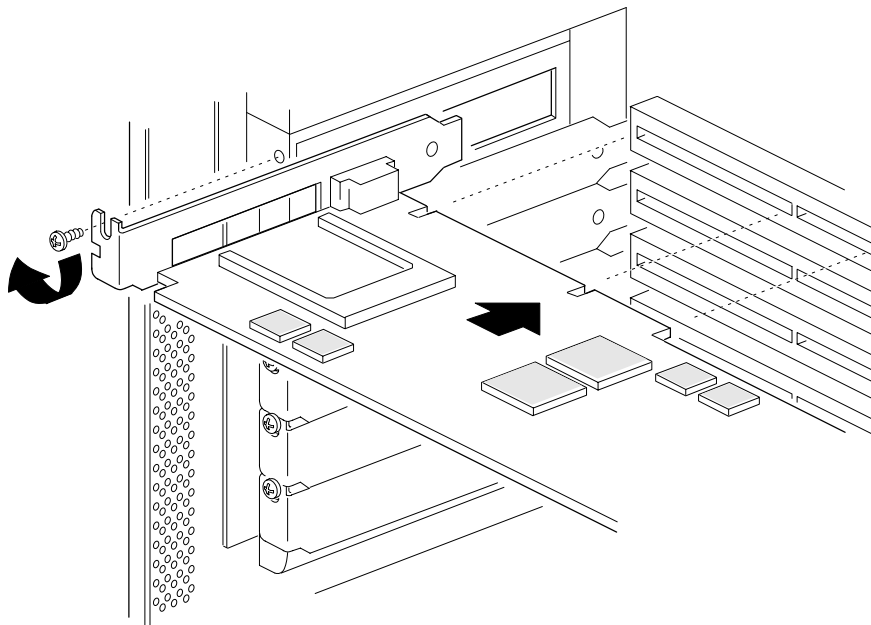


図 1-4. サーバモニタモジュールの装着

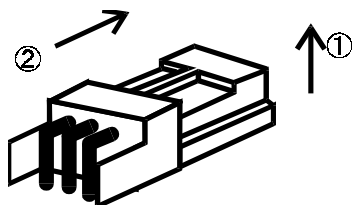
9. 第2温度センサケーブルのセンサ端を、サーバのマニュアルの記述の位置に固定してください。同梱のケーブル押さえに第2温度センサケーブルの先端をはさみこみ、裏面の両面テープによって固定します。
10. 拡張機能用ケーブルのもう一方の端を、サーバのマザーボード上にある専用コネクタに接続してください。（コネクタの位置については、サーバのマニュアルを参照してください）
11. 本製品添付のシール（バッテリーの注意書き）をサーバ内部の底面の見やすい位置に貼り付けてください。

ここまでのすべての作業を終えたら、モジュールのバッテリーコネクタ（図 1-1, B 1-3頁）にバッテリーケーブル（図1-1 G, 1-3頁）を接続してください。

⚠ 注意

バッテリーケーブルを抜く必要があるときは、ケーブルをつかんで無理に引き抜かないでください。コネクタのケーブル側の面を上を持ち上げながら、コネクタを抜き方向に押しと簡単にはずれます。

①方向に持ち上げながら、②方向に押す



12. サーバのマニュアルの記述に従って、サーバのカバーを元の位置に取り付けてください。
13. PCMCIAモデムに添付された電話ケーブルのモデムコネクタをPCMCIAモデムのコネクタ（図 1-2 C, 1-4頁）に差し込んでください。電話ケーブルのもう一方の端を電話回線に接続してください。

1.3.2 外付けモデムの接続

PCMCIAモデムを装着しない場合、外付けモデムを装着することができます。
（PCMCIAモデムを装着した方は、1.3.3に進んでください）

外付けモデムの一般的な取り付け手順を以下に示します。そのほかの情報については、モデムのマニュアルを参照してください。

モジュールがメッセージを正しく送受信できるように、外付けモデムのAC電源コードは無停電電源装置（UPS）に接続してください。

1. 外付けモデムに添付されているRS-232ケーブルのメスのコネクタを、モジュールのシリアルポート（図 1-5, A）に差し込んでください。
2. RS-232ケーブルのもう一方の端を外付けモデムに接続してください。
3. 電話コードの一方の端を、モデムのライン入力ジャックに挿入してください。もう一方の端は、電話回線（図 1-5, B）に接続してください。
4. モデムのAC電源コードを無停電電源装置（図 1-5, C）に差し込んでください。
5. モデムの電源を投入してください。

1.3 サーバモニタモジュールの装着

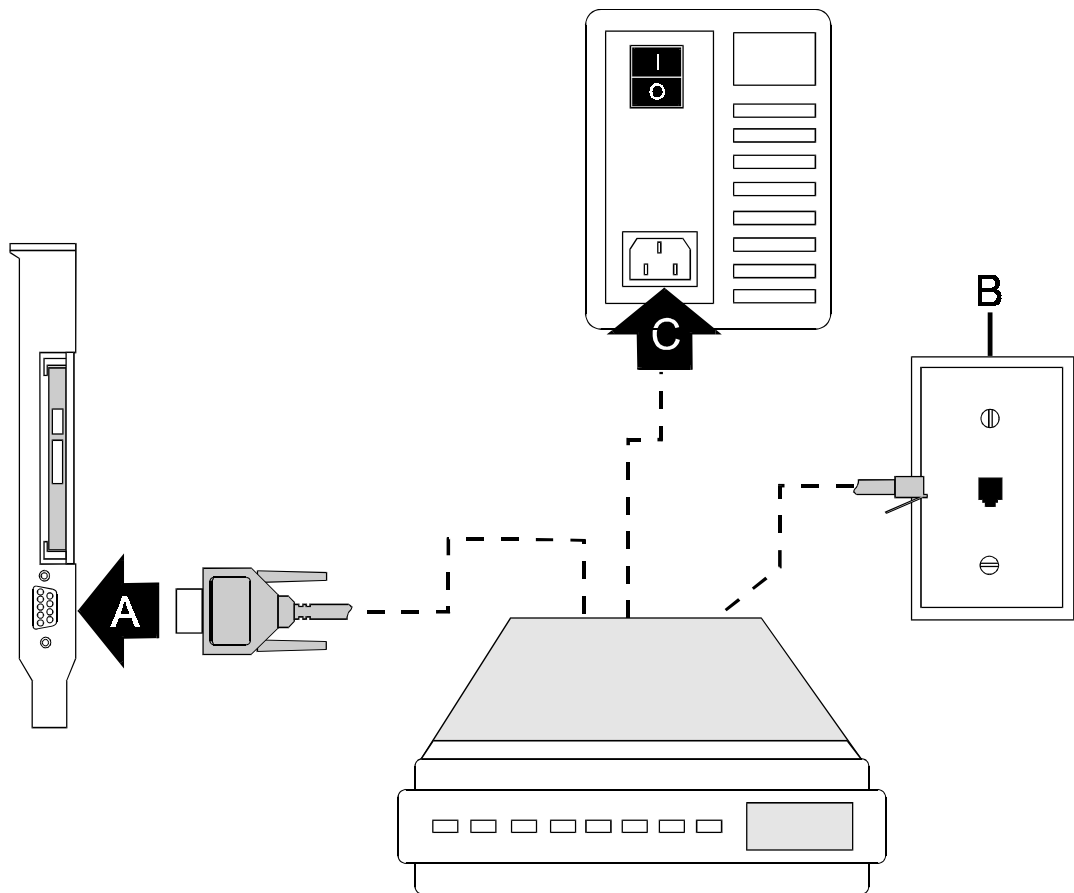


図 1-5. 外付けモデムの一般的な実装例

- A— シリアルポートおよびRS-232ケーブル
- B— 電話回線
- C— 無停電電源装置(UPS)

1.3.3 装着の終了

最初に外したケーブル類と電源コードを元のとおりサーバに接続し直してください。

1.4 コンフィグレーション

サーバに添付されているコンフィグレーションユーティリティの種類 (SCU, ECU, ICU) により異なる方法で、モジュールの使用するシステム資源 (IRQ、DMA等) の設定 (コンフィグレーション) を行います。

1.4.1 SCU添付サーバにおけるコンフィグレーション

サーバ添付のコンフィグレーションユーティリティ(SCU)を起動して、モジュールの使用するシステム資源 (IRQ、DMA等) の設定 (コンフィグレーション) を行います。サーバに添付されているLANDesk® Server Mangerのユーティリティディスク内に、モジュールの特徴およびモジュールが必要なシステム資源に関して記述したコンフィグレーションファイル (!INT0016.CFG) を納めてあります。以下の手順に従って、モジュールのコンフィグレーションを行ってください。

注意

モジュールのコンフィグレーションを行う前に、LANDesk® Server Mangerのユーティリティディスクからサーバ添付のコンフィグレーションユーティリティディスクに、以下のファイルをコピーする必要があります。(コピー方法については、サーバのマニュアルを参照してください)

!INT0016.CFG

1. サーバ添付のコンフィグレーションユーティリティを起動してください。(起動方法については、サーバのマニュアルを参照してください)
2. STEP 3を選択してください。
3. F9キーを押し、空いているシステム資源を確認してください。(詳細はサーバのマニュアルを参照してください)
モジュールは、以下のリソースを設定可能です。

I/O Port	110-113h, 210-213h, 310-313hの内、任意のI/O port
メモリ	000C8000 (デフォルト), 000CA000, 000CC000, 000CE000, 000D0000, 000D2000, 000D4000, 000D6000, 000D8000, 000DA000, 000DC000, 000DE000, 000E0000, 000E2000, 000E4000, 000E6000, 000E8000, 000EA000, 000EC000, 000EE000, から8KBの内、任意のメモリ空間
IRQ	4 (デフォルト), 5, 6, 7, 10, 11, 12, 14, 15の内、任意のIRQ
DMA	3 (デフォルト), 0, 1, 5, 6, 7の内、任意のDMA

掲記のうち、空いているシステム資源の無い項目があった場合、サーバのマニュアルに従い、他のボード類の使用している資源を整理 (変更) し、モジュールの資源を確保してください。

モジュールの資源が確保されない場合、モジュールのコンフィグレーションはできません。

4. STEP 2を選択してください。
5. Insert キーを押してください。

1.4 コンフィグレーション

6. コンフィグレーションファイルを選択する画面になったら、!INT0016.CFGを選択し、Enterキーを押してください。
7. モジュールを装着したスロット番号を選び、Enterキーを押してください。
8. STEP 3を選択してください。
9. Intel Server Monitor Moduleに合わせて、Enterキーを押してください。
10. Server Monitor Module Port Locationに合わせて、Enterキーを押してください。
11. 以下の中から、3.で確認した空いているI/O Portを選択してください。

I/O Port 110H-113H (デフォルト), 210H-213H, 310H-313H

12. Server Monitor Module Shared Memoryに合わせてF6キーを押してください。
13. 以下の中から、3.で確認した空いているメモリアドレスを選択してください。

Memory	8K
Address	000C8000 (デフォルト), 000CA000, 000CC000, 000CE000, 000D0000, 000D2000, 000D4000, 000D6000, 000D8000, 000DA000, 000DC000, 000DE000, 000E0000, 000E2000, 000E4000, 000E6000, 000E8000, 000EA000, 000EC000, 000EE000

注意

ここで選択した内容をメモしておいてください。

14. Server Monitor Module IRQに合わせてF6キーを押してください。
15. 以下の中から、3.で確認した空いているIRQレベルを選びEnterキーを押してください。

IRQ 4 (デフォルト), 5, 6, 7, 10, 11, 12, 14, 15

16. Server Monitor Module DRQに合わせてEnterキーを押してください。
17. 以下の中から、3.で確認した空いているDMAチャンネルを選びEnterキーを押してください。

DMA Channel 3 (デフォルト), 0, 1, 5, 6, 7

18. Server Monitor Module Enable SMI, IRQ and DMAに合わせてEnterキーを押してください。

以下の中から、Enabled の設定を選びEnterキーを押してください。

Enabled (デフォルト), Disabled

**注意**

本設定は、Enabledの設定値を選択してください。
他の設定になっていた場合は、必ずEnabledに設定しなおしてください。

19. 全ての設定が正しく成されたことを確認して、Escキーを押してください。
20. System boardを選択してEnterキーを押してください。

MEMORY SUBSYSTEM GROUP 中のShadowing ISA ROM の中から次の手順で対応アドレスを探します。

掲記でメモしたメモリアドレスに対応するアドレスを以下の表に従って探してください。

000C8000 または 000CA000を選択した場合	C8000H
000CC000 または 000CE000を選択した場合	CC000H
000D0000 または 000D2000を選択した場合	D0000H
000D4000 または 000D6000を選択した場合	D4000H
000D8000 または 000DA000を選択した場合	D8000H
000DC000 または 000DE000を選択した場合	DC000H
000E0000 または 000E2000を選択した場合	E0000H
000E4000 または 000E6000を選択した場合	E4000H
その他のアドレスを選択した場合	設定不要

見つけたアドレス値の設定がDisabledであることを確認してください。

**注意**

Enabledに設定されていた場合は、必ずDisabledに設定を変更してください。

21. 設定を再度確認してください。
22. STEP 4を選択し、Enterキーを押してください。
23. コンフィグ情報をセーブできたら、STEP 6 Exitを選択し、Enterキーを押してください。
24. MS-DOSに戻ったら、サーバの電源を落としてください。

**注意**

モジュールの設定が完了した後、他の拡張ボードの増設等によりシステム資源の再設定を行う場合、モジュールの設定内容が消去されてしまう場合があります。

その場合、モジュールのコンフィグレーションを再度実施してください。

25. サーバモニタモジュールの関連ソフトウェアをインストールしてください。(詳細は別マニュアル(紙またはオンラインマニュアル)を参照ください)

1.4.2 ECU添付サーバにおけるコンフィグレーション

サーバ添付のコンフィグレーションユーティリティ(ECU)を起動して、モジュールの使用
するシステム資源 (IRQ、DMA等) の設定 (コンフィグレーション) を行います。サーバ
に添付されているLANDesk® Server Mangerのユーティリティディスク内に、モジュールの
特徴およびモジュールが必要なシステム資源に関して記述したコンフィグレーションファ
イル (!INT0016.CFG) を納めてあります。以下の手順に従って、モジュールのコンフィグ
レーションを行ってください。

注意

モジュールのコンフィグレーションを行う前に、LANDesk® Server Mangerのユーティリ
ティディスクからサーバ添付のコンフィグレーションユーティリティディスクに、以下の
ファイルをコピーする必要があります。(コピー方法については、サーバのマニュアルを
参照してください)

!INT0016.CFG

1. サーバ添付のコンフィグレーションユーティリティを起動してください。(起動方法
については、サーバのマニュアルを参照してください)
2. STEP 3を選択してください。
3. F7キーを押し、空いているシステム資源を確認してください。(詳細はサーバのマニ
ュアルを参照してください)
モジュールは、以下のリソースを設定可能です。

I/O Port	110-113h, 210-213h, 310-313hの内、任意のI/O port
メモリ	000C8000 (デフォルト), 000CA000, 000CC000, 000CE000, 000D0000, 000D2000, 000D4000, 000D6000, 000D8000, 000DA000, 000DC000, 000DE000, 000E0000, 000E2000, 000E4000, 000E6000, 000E8000, 000EA000, 000EC000, 000EE000,から8KBの内、任意のメモリ空間
IRQ	4 (デフォルト), 5, 6, 7, 10, 11, 12, 14, 15の内、任意のIRQ
DMA	3 (デフォルト), 0, 1, 5, 6, 7の内、任意のDMA

掲記のうち、空いているシステム資源の無い項目があった場合、サーバのマニュアルに
従い、他のボード類の使用している資源を整理 (変更) し、モジュールの資源を確保して
ください。

モジュールの資源が確保されない場合、モジュールのコンフィグレーションはできませ
ん。

4. STEP 2を選択してください。
5. Insert キーを押してください。
6. コンフィグレーションファイルを選択する画面になったら、!INT0016.CFGを選択し、
Enterキーを押してください。
7. モジュールを装着したスロット番号を選び、Enterキーを押してください。
8. STEP 3を選択してください。
9. Server Monitor Module Port Locationに合わせて、Enterキーを押してください。

10. 以下の中から、3.で確認した空いているI/O Portを選択してください。

I/O Port 110H-113H (デフォルト), 210H-213H, 310H-313H

11. Server Monitor Module Shared Memoryに合わせてF6キーを押してください。
 12. 以下の中から、3.で確認した空いているメモリアドレスを選択してください。

Memory	8K
Address	000C8000 (デフォルト), 000CA000, 000CC000, 000CE000, 000D0000, 000D2000, 000D4000, 000D6000, 000D8000, 000DA000, 000DC000, 000DE000, 000E0000, 000E2000, 000E4000, 000E6000, 000E8000, 000EA000, 000EC000, 000EE000

13. Server Monitor Module IRQに合わせてF6キーを押してください。
 14. 以下の中から、3.で確認した空いているIRQレベルを選びEnterキーを押してください。
 IRQ 4 (デフォルト), 5, 6, 7, 10, 11, 12, 14, 15
 15. Server Monitor Module DRQに合わせてEnterキーを押してください。
 16. 以下の中から、3.で確認した空いているDMAチャンネルを選びEnterキーを押してください。

DMA Channel 3 (デフォルト), 0, 1, 5, 6, 7

17. Server Monitor Module Enable SMI, IRQ and DMAに合わせてEnterキーを押してください。

以下の中から、 Enabled の設定を選びEnterキーを押してください。

Enabled (デフォルト), Disabled

注意

本設定は、Enabledの設定値を選択してください。
 他の設定になっていた場合は、必ずEnabledに設定しなおしてください。

18. 設定を再確認後、F7キーを押しモジュールの使用するリソースをロックしてください。(詳細はサーバのマニュアルを参照してください)
 19. STEP 5を選択し、Enterキーを押してください。
 20. コンフィグ情報をセーブするため、以下の項目を選択しEnterキーを押してください。
 Save the Configuration and restart the computer

1.4 コンフィグレーション

注意

モジュールの設定が完了した後、他の拡張ボードの増設等によりシステム資源の再設定を行う場合、モジュールの設定内容が消去されてしまう場合があります。
その場合、モジュールのコンフィグレーションを再度実施してください。

21. サーバモニタモジュールの関連ソフトウェアをインストールしてください。（詳細は別マニュアル（紙またはオンラインマニュアル）を参照ください）

1.4.3 ICU添付サーバにおけるコンフィグレーション

サーバ添付のコンフィグレーションユーティリティ(ICU)を起動して、モジュールが使用するシステム資源（IRQ、DMA等）の設定（コンフィグレーション）を行います。サーバに添付されているLANDesk® Server Mangerのユーティリティディスク内に、モジュールの特徴およびモジュールが必要なシステム資源に関して記述したコンフィグレーションファイル（!INT0016.CFG）を納めてあります。以下の手順に従って、モジュールのコンフィグレーションを行ってください。

注意

モジュールのコンフィグレーションを行う前に、LANDesk® Server Mangerのユーティリティディスクに格納されている以下のファイルをサーバ添付のコンフィグレーションユーティリティにコピーし、設定の準備を行う必要があります。（準備の方法については、サーバのマニュアルを参照してください）

!INT0016.CFG

1. サーバ添付のコンフィグレーションユーティリティを起動してください。（起動方法については、サーバのマニュアルを参照してください）
2. 空いているシステム資源を確認してください。（詳細はサーバのマニュアルを参照してください）
モジュールは、以下のリソースを設定可能です。

I/O Port	110-113h, 210-213h, 310-313hの内、任意のI/O port
メモリ	000C8000 (デフォルト), 000CA000, 000CC000, 000CE000, 000D0000, 000D2000, 000D4000, 000D6000, 000D8000, 000DA000, 000DC000, 000DE000, 000E0000, 000E2000, 000E4000, 000E6000, 000E8000, 000EA000, 000EC000, 000EE000, から8KBの内、任意のメモリ空間
IRQ	4 (デフォルト), 5, 6, 7, 10, 11, 12, 14, 15の内、任意のIRQ
DMA	3 (デフォルト), 0, 1, 5, 6, 7の内、任意のDMA

掲記のうち、空いているシステム資源の無い項目があった場合、サーバのマニュアルに従い、他のボード類の使用している資源を整理（変更）し、モジュールの資源を確保してください。

モジュールの資源が確保されない場合、モジュールのコンフィグレーションはできません。

3. モジュールのコンフィグレーションを実施し、モジュールに割り当てた資源をメモしてください。（コンフィグレーション方法については、サーバのマニュアルを参照してください）

4. コンフィグレーション情報をセーブ後、コンフィグレーションユーティリティを終了してください。（終了方法については、サーバのマニュアルを参照してください）
5. サーバの電源を一旦切断し、再度電源を投入後、BIOS Setupを起動してください。（起動方法については、サーバのマニュアルを参照してください）
6. BIOS Setupのメニュー上で、SMM cardの項をEnableにし、必ず掲記3項でメモした資源のとおり、モジュールの設定を実施してください。（詳細な設定手順は、サーバのマニュアルを参照してください）

 **注意**

3項でメモした資源のとおり、モジュールの設定を実施しなかった場合、サーバの動作は保証されません。

7. 設定をセーブし、BIOS Setupを終了してください。（終了方法については、サーバのマニュアルを参照してください）

 **注意**

モジュールの設定が完了した後、他の拡張ボードの増設等により、ICUにてシステム資源の再設定を行う場合、モジュールの設定内容が消去されてしまう場合があります。その場合、モジュールのコンフィグレーションを再度実施してください。

8. サーバモニタモジュールの関連ソフトウェアをインストールしてください。（詳細は別マニュアル（紙またはオンラインマニュアル）を参照ください）

モジュールの参考情報

2

ここではバッテリーパックやモジュールの仕様、シリアルポートのピン配列などハードウェアに関する事項について説明します。

2.1 バックアップ用バッテリーパック

サーバの電源が異常に失われたとき、バッテリーパックがモジュールに給電を行います。バッテリーパック内の充電式ニッケル - カドミウム (NiCd) バッテリーの寿命は、約5年間ご使用になるか、または約300回程度の充放電を実施した場合です。

取り替え用のバッテリーパックについては、弊社担当保守員にお問い合わせください。

新しいバッテリーパックは、少なくとも4時間はサーバ内で充電する必要があります。充電を完了することにより、はじめてバックアップ電源として使用できるようになります。充電はサーバの電源を投入することにより自動的に開始されます。

注意

機器を廃棄する際にはニッカド電池を取り出してください。これらのニッカド電池および寿命に達して交換したニッカド電池は、貴重な資源ですので、お近くの「ニッカド電池リサイクル協力店」へお持ちください。

取り出したニッカド電池は、短絡（ショート）防止のために、端子を絶縁テープで貼る等の対策を講じた後、乾電池等の他の電池と混ぜないように保管してください。

2.1 バックアップ用バッテリーパック

2.1.1 バッテリーパックの取り換え方法

注意

バックアップ用ニッカド電池は、通常お客様が交換する必要はありません。データ等が壊れる恐れがありますので、故障等によるバッテリーパックの交換は、弊社担当保守員に依頼してください。

また機器を廃棄する際は、バックアップ用ニッカド電池をニッカド電池リサイクル協力店にお返してください。

モジュールをサーバの拡張スロットから取り外すときも取り付けるときもバッテリーパックはモジュールに電気を供給し続けています。モジュールの故障や感電によるケガを避けるために、「1.1.2作業を開始する前に」の注意点をよくお読みになってから作業を進めてください。

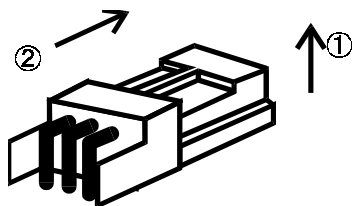
バッテリーパックを交換するには

1. 第1章の「作業を開始する前に」で示した注意事項に目を通します。
2. サーバシステムの電源を切って、電源コードや外部接続ケーブルをすべて取り外します。
3. サーバのマニュアルの記述に従い、サーバのシステムカバーを取り外します。
4. バッテリーコネクタ（図2-1,A）を取り外します。

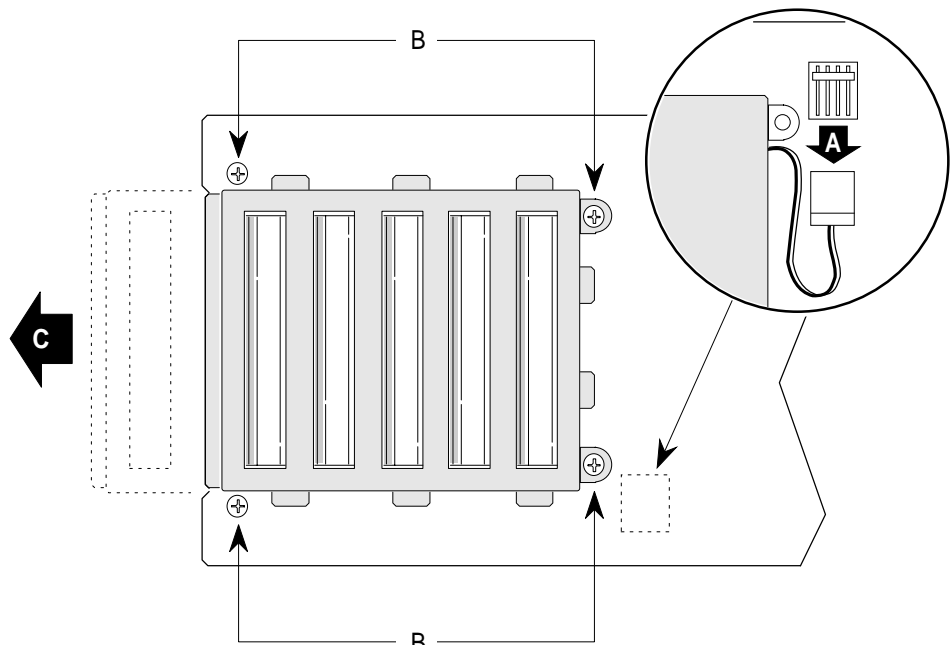
注意

バッテリーケーブルを抜くときは、ケーブルをつかんで無理に引き抜かないでください。コネクタケーブルのケーブル側の面を上を持ち上げながら、コネクタを抜き方向に押しと簡単にはずれます。

①方向に持ち上げながら、②方向に押し



5. プラスドライバーで、モジュールを支えているブラケットのネジを取り外して保管します。第1章の図 1-3を参照してください。
6. 内部ケーブルをモジュールから外し、モジュールを拡張スロットから取り出して、絶縁処理された場所に部品面を上にして置きます。
7. プラスドライバーで、バッテリーパックを抑えている4本の止めネジを取り外して保管します。（図2-1, B）
8. モジュールのプリント板の切欠き部からバッテリーパック（図2-1, C）を引き出します。



9.

図 2-1. バックアップ用バッテリーパック, 下面図

A—バッテリーパックの電源コネクタ B—ネジ

C—バッテリーパックを抜く方向

9. 新しいバッテリーパック (図 2-1, C) をモジュールのプリント板の切欠きに挿入し、4本の止めネジ (図 2-1, B) を取り付けます。ネジは十分に締めてください。
10. モジュールから取り外した内部ケーブルを全て接続します。(詳細は第1章を参照してください)
11. モジュールの上端または上部コーナを持って、システムボードの拡張スロットにしっかりと差し込みます。(第1章の図1-4参照)モジュール保持ブラケットの先細りになった脚の部分が拡張スロット枠の対応スロットにぴったり合わなければなりません。
12. 保持ブラケットの円い切めきの位置を拡張スロット枠のネジ穴に合わせます。
13. プラスドライバで、ネジをネジ穴に差し込みます。ブラケットのスロットをネジに押しつけて、ブラケットが隣のブラケットとぶつからないようにしっかりと固定します。
14. バッテリーパックの電源ケーブルを (図2-1, A) を接続します。
15. サーバのマニュアルの記述に従って、システムカバーを元の位置に取り付けます。その他のすべての外部ケーブルと電源ケーブルをサーバに接続します。

2.2 仕様

2.2.1 物理仕様

重量	約 0.5 kg
長さ	33.97 cm
幅	12.19 cm

2.2.2 電気仕様

電源	電圧	電流	電力
一次 (サーバISAスロット)	+5 V	0.1 A	0.5 W
	+12 V	1.5 A	18 W
二次 (バッテリーパック)	+6 V	1.2 A	7.2 W

2.2.3 NiCdバッテリー仕様

種類	充電式ニッカド電池
電圧	+6 V
電流容量	1700mAh
NiCdバッテリーの交換目安	充放電を300回程度実施 または5年間使用

2.2.4 環境

パラメータ	仕様
温度	動作時 0 ~ 50°C (但しPCMCIAモデムを装着した場合は、そのモデムの動作保証温度に依存します)
	非動作時 -30 ~ 60°C
湿度	動作時 92% RH
	非動作時 85% RH

2.3 シリアルポートコネクタ

ピン	信号	説明
1	DCD	データキャリア検出
2	RXD	受信データ
3	TXD	送信データ
4	DTR	データ端末レディ
5	GND	グラウンド
6	DSR	データセットレディ
7	RTS	送信要求
8	CTS	送信可
9	RIA	リングインジケータ

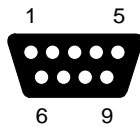


図 2-2. シリアルポートコネクタ

2.4 モデムについて

本製品の全機能をサポートするためには、モデム（別売）が必要です。弊社のカタログに掲載されている、サーバモニタモジュールに接続可能なモデムを、第1章の記述に従って接続してください。

モデムを接続しない場合、out of bandでサポートする機能は使用できません。（詳細は関連ソフトウェアに添付されている別マニュアル（紙またはオンラインマニュアル）を参照ください）

GRANPOWER5000 シリーズ
サーバモニタモジュール(GP5-SM101)

取扱説明書

B1FY-1521-02-00

発 行 日 1997 年 5 月

発 行 責 任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。